

第三七回 くるめの考古資料展

平成二〇〇二年度 発掘調査速報展

イベント

◆ギャラリートーク

発掘調査担当者による展示解説

開催期間中の毎週日曜日

14:00～(15分程度/最終日のみ

15:00開始)申し込み不要

直接展示会場へお越しください

◆坂本家♪ここまでわかる♪発掘で♪

坂本繁三郎生家の調査成果解説と

火起こし・カマド体験

10月27日(土) 10:00～15:00

坂本繁三郎生家集合・解散

参加費/無料(入館料200円が必要。

但し、土曜日のため高校生以下無料)

問合せ先/久留米市埋蔵文化財センター

TEL0942-34-4995

◆みづま祭り「勾玉をつくろう」

11月3日(土)/4日(日)

9:00~/先着60名ずつ

申し込み不要(体験料100円が必要。)

会場:2000年記念の森公園

平成24年

10月20日^土
～11月11日^日

開催時間

9:00～17:00

(入場は16:30まで)

期間中無休/入場無料

会場

久留米市埋蔵文化財センター
(えーるピア久留米敷地内)

ごあいさつ

「文化の日」をはさんで設けられている、文化財保護強調週間に際し、久留米市では「くるめの考古資料展」を開催し、市民の皆様にも久留米の遺跡や歴史を紹介しております。37回目を迎える本年度は「発掘調査速報」をテーマに、平成20年度～23年度に実施した調査の成果を展示しています。

この展示を通して、文化財について考えていただく機会になれば幸いです。

末文になりましたが、展示会を開催するにあたりご協力いただきました多くの関係機関、関係者の皆様方に深く感謝の意を表します。

平成24年10月20日

久留米市長 楢原 利則

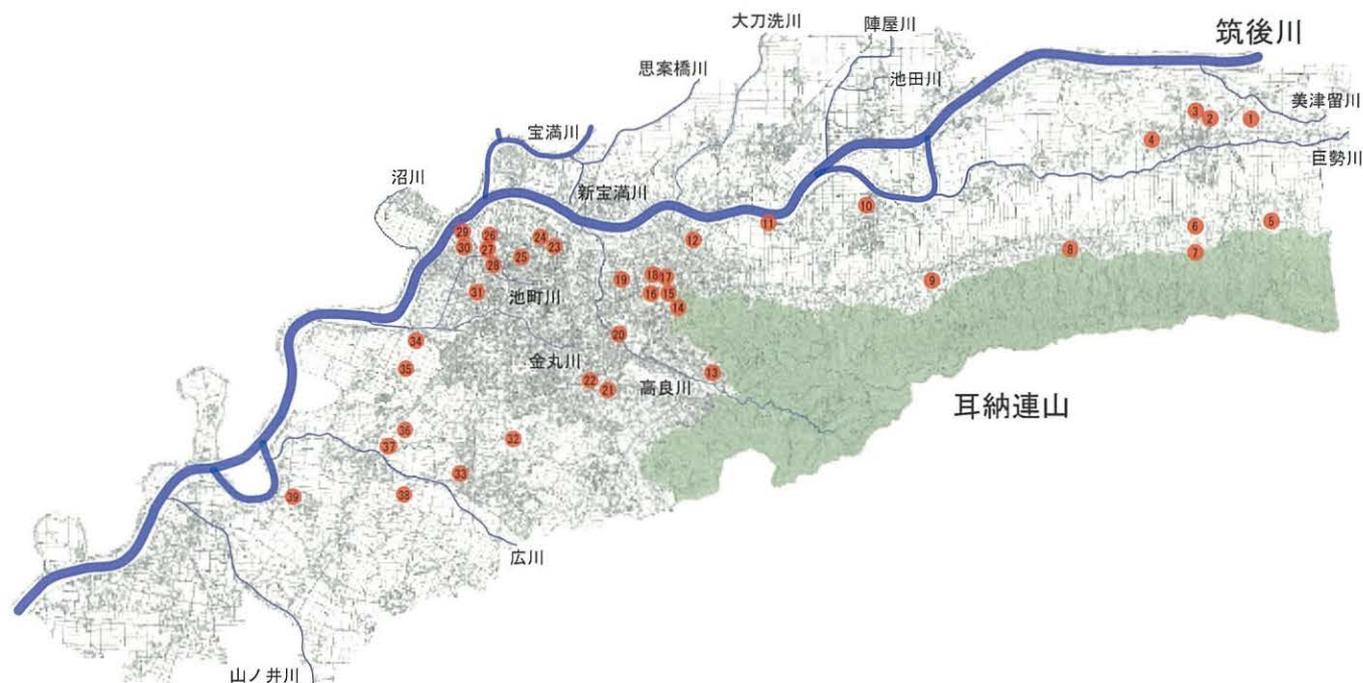
開催にあたって

平成17年2月の1市4町の合併により広大な市域となった久留米市には、九州一の大河筑後川と耳納連山をはじめとする豊かな自然とともに、先人達から連綿と受け継がれてきた歴史が数多く存在します。これらは発掘調査によって掘り起こされ、その成果は私たちに多くのことを語りかけてくれます。しかし、教科書に載っている遺跡や新聞誌上を賑わすような遺跡はよく知られていますが、身近に残された先人の遺産はあまり知られていないようです。

文化財は先人の残した生活の跡です。古墳や城址など有形のもの、生活習慣・社会組織など無形のものともさまざまです。これらは貴重な先人の歴史を後世に残し伝えていく国民共有の財産です。多くの場合、遺跡はそのまま保存されますが、中にはやむをえず開発などで壊されてしまうこともあります。このような場合は、記録として保存し、後世に伝えていくことを目的として発掘調査を行うこととなります。調査成果は、研究の対象ともなり、地域の歴史の解明に役立ち、公開されることによって、初めて十分な成果をあげたといえます。

久留米市では年間およそ20～30件の発掘調査を行っておりますが、平成20年度～23年度の4年間に実施した発掘調査は102件を数えます。発掘調査が終了すると、出土した遺物や写真・図面などの情報を整理し、発掘調査報告書にまとめます。また、展示会などを通じて情報発信も行っており、今回は過去4年間の調査成果を紹介します。

平成 20 ~ 23 年度発掘調査遺跡



遺跡一覧表

No.	遺跡名	主な時代	No.	遺跡名	主な時代
1	力常遺跡	飛鳥	21	中隈山古墳群	古墳
2	水分遺跡	弥生～中世	22	日渡遺跡	鎌倉
3	玉田遺跡	古墳	23	辻遺跡	弥生
4	新替遺跡	弥生	24	東櫛原今寺遺跡	弥生・弥生
5	田主丸大塚古墳	古墳	25	櫛原侍屋敷遺跡	江戸
6	益永古墳群	古墳	26	久留米城外郭遺跡	江戸
7	益生田古墳群	古墳	27	久留米城下町遺跡	江戸
8	飛塚古墳	古墳	28	庄島侍屋敷遺跡	江戸
9	下馬場古墳	古墳	29	有馬家大名墓地	江戸
10	善導寺境内遺跡	江戸	30	京隈侍屋敷遺跡	江戸
11	太郎原遺跡	古墳	31	中原遺跡	奈良
12	安国寺遺跡	弥生	32	西海道跡	奈良
13	岩竹2号墳	古墳	33	二子塚遺跡	平安
14	岩井川遺跡	平安～鎌倉	34	庄屋野遺跡	縄文
15	二本木遺跡	鎌倉	35	念仏塚遺跡	平安
16	横道遺跡	平安	36	糠尾古墳群	古墳
17	神道遺跡	縄文～鎌倉	37	古賀遺跡	弥生～平安
18	へボノ木遺跡	平安	38	旗原遺跡	弥生～中世
19	筑後国府跡	飛鳥～鎌倉	39	塚崎遺跡	弥生
20	山ノ神古墳群	古墳			

久留米市東部の遺跡

久留米市の東部にあたる地域では、水分遺跡（弥生時代～中世）、玉田遺跡（古墳～奈良時代）、太郎原遺跡（古墳～奈良時代）などの集落遺跡のほか、田主丸大塚古墳、下馬場古墳、岩竹2号墳など古墳の発掘調査が行われました。

水分遺跡第5次調査（田主丸町）



調査区全景（南東から）

弥生時代の二重に巡る溝や、大型住居を含む200棟を超える^{たてあなじゅうきょ}竪穴住居、倉庫とみられる^{ほったてばしらたてもの}掘立柱建物、貯蔵穴などが確認されています。出土遺物には、朱色の顔料が付着した甕、^{てつぞく}鉄鏃・^{どうぞく}銅鏃などの金属製品が多くあり、弥生時代後期の有力な集落であったことが分かりました。ほかにも、古墳時代や奈良時代の遺構なども見つかりました。

太郎原遺跡第1次調査（太郎原町）



調査区全景（東から）



竪穴住居



カマド

古墳時代の竪穴住居が30軒程確認されています。古墳時代中期のカマドをもつものや、ベッド状の施設を持つ竪穴住居も確認されています。

岩竹2号墳第1次調査（高良内町）



石室を望む

高良山の南麓にあります。墳丘の上には^{とみまつじんじや}富松神社が^{ちんざ}鎮座していました。古墳主体部は筑後地方特有の^{どうば}胴張り形の^{よこあなしきせきしつ}横穴式石室です。墳形は不明ですが、直径20m弱の古墳であったと思われます。金銅製の^{ばぐ}装飾品や^{ゆみかなぐ}馬具、弓金具などが出土しました。

しもばこふん
下馬場古墳第2次調査（草野町）



下馬場古墳調査風景（南西から）



出土した馬形埴輪の一部。馬具のベルト
つじかなぐ
や辻金具などが表現されています。



下馬場古墳全景（破線は墳丘推定ライン）

今回の調査は、正確に分か
かっていない下馬場古墳の
規模を確定する目的で行い、
調査の結果、直径約40m以
上の大円墳であることが分
かりました。

また、円筒埴輪・家形埴輪
輪・馬形埴輪・人物埴輪な
ど、豊富な種類の埴輪が出
土しました。これだけの種
類が出土するのは極めて稀
なことです。

ためしまるおおつか
田主丸大塚古墳第7次調査（田主丸町）



田主丸大塚古墳全景（南から）

耳納連山の急斜面
上の尾根筋に位置し
ています。田主丸大
塚古墳は墳長103m
を測る大型の前方後
円墳で、葺石で覆わ
れていたことが分っ
ています。今回の調
査では、古墳西側
には周溝は巡らないこ
と、後円部には段状の
築造が存在していたこ
とがわかりました。

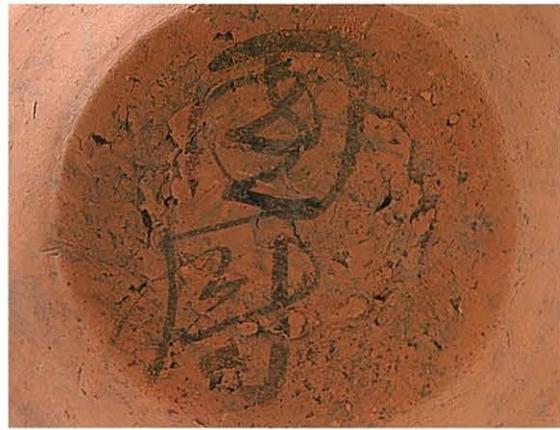
久留米市中部の遺跡

久留米市中部の地域では、筑後国府跡（飛鳥～鎌倉時代）、岩井川遺跡（平安～鎌倉時代）、神道遺跡（縄文～鎌倉時代）、二本木遺跡（鎌倉時代）の官衙跡や集落遺跡、山ノ神古墳群、中隈山古墳群など古墳の発掘調査が行われました。

筑後国府跡（合川・朝妻町）



第232次調査全景（北西から）



第246次調査出土の墨書土器「国厨」

第231次調査では、9世紀の国司館の北限溝や築地塀などが確認されました。東西にのびる官道に沿った溝と築地塀が途切れていなかったことから、官道沿いには門がなかった可能性が高まりました。出土した遺物には、当時貴重品だった中国産（越州窯系）の青磁や国内産の緑釉陶器や灰釉陶器、墨書土器や刻書土器のほか、大量の食器などがあります。

第232次調査では、味水御井神社の朝妻清水の湧水点から水を引いたと思われる鍮水遺構と呼ばれるものが確認されました。「曲水の宴」が筑後国府でも行われていた可能性が考えられます。

第246次調査では、国府で行われる饗宴や、役人の給食のための施設を表す「国厨」や「大殿」と書かれた墨書土器も出土し、注目されます。

岩井川遺跡第2次調査（御井町）



調査区全景（南東から）

高良玉垂宮に奉仕した大宮司の屋敷跡と推定されます。

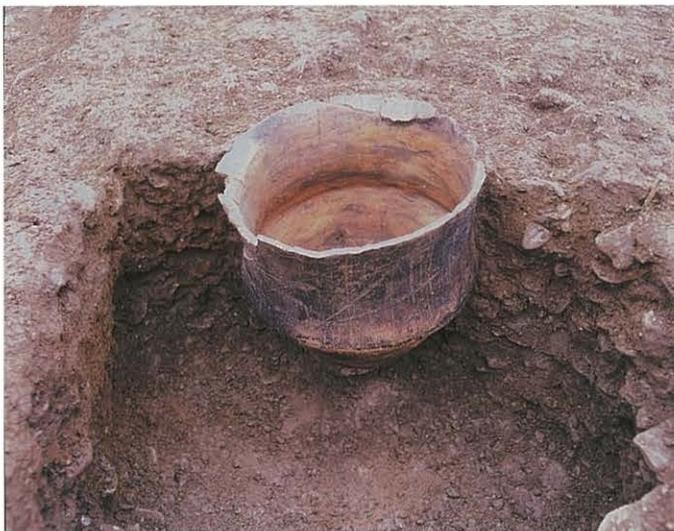
大量の輸入陶磁器や、京都系土師器、緑釉陶器など国内産の広域流通品が多数出土しました。また、鍛冶炉も確認され、鉄製品と銅製品を製造していたことも分かりました。

古代から中世にかけて社寺勢力が経済的にも力を持つようになり、様々な金属製品を生産していたのでしょう。

しんどう
神道遺跡（御井旗崎一丁目）



第25次調査区全景（北から）



第26次調査 埋甕出土状況



せとうちがたどすい
瀬戸内型土錘

筑後国府に隣接する集落であることから、国府に勤めた下級官人などの居住域と思われます。

第25次調査では、竪穴住居から瀬戸内型土錘と呼ばれる漁網のおもりが出土しました。筑後地方には無いもので、どのような経緯で持ち込まれたのかは不明です。

第26次調査では、縄文時代晩期の埋甕が13基出土しました。過去にも周辺から8基の出土例があります。調査区内には縄文時代後期から弥生時代前期の大溝も確認され、高良山を水源とした導水路か断層崖からの湧水を引いていた可能性が考えられます。

トピックス～高良山周辺は九州のクロスロード～



道路模式図

- 凡 例
- 推定西海道（古代）
 - 推定伝路（古代）
 - 坊ノ津街道（中世～近世）
 - 日田街道（山辺道）（近世）
 - 日田街道（中道）（近世）
 - 府中道（近世）
 - ① 筑後国府跡
 - ② 神道遺跡
 - ③ 岩井川遺跡

高良山の麓は、古代から交通の要衝として発展を遂げてきました。

奈良・平安時代には官道である西海道と、それに付随する伝路が、江戸時代には坊ノ津街道と、それに交差する府中道、日田街道どがありました。

今でもその名残を見ることができるので、地図を見ながら歩いてみるのもいいですよ。

久留米市街地の遺跡

市街地では、京隈侍屋敷遺跡、櫛原侍屋敷遺跡、久留米城外郭遺跡、庄島侍屋敷遺跡、久留米城下町遺跡などの調査が行われました。また、江戸時代以前の遺跡では、東櫛原今寺遺跡（弥生時代）、中原遺跡（奈良時代）などの発掘調査も行っています。

櫛原侍屋敷遺跡第15次調査（櫛原町）



階段を持つ穴蔵

武士の屋敷地のほぼ1軒分を調査しました。隣の家との間に空間、玄関には穴蔵、勝手口から中庭へ出る通路に便槽として使用された甕が埋め置きされていました。裏庭中央に井戸があり、建物南側から東側にかけて庭があるなど、近世武家屋敷の土地利用の様子がよく分かりました。

出土遺物には久留米藩医・田中家にかかわる医療器具や、武士の趣味を物語る楽焼の壺などがあります。

京隈侍屋敷遺跡第12次調査（京町）



木製品出土状況

中級武士の屋敷地です。この調査では、穴蔵や井戸・溝などの遺構の他、地震による地割れ跡も見つかりました。確認された井戸からは、初期伊万里の器片が出土しています。また、大量の木製品もあり、漆器の大皿や椀、木製品の部材の一部と思われるもののほか、下駄・羽子板・独楽などの製品も出土しています。

京隈侍屋敷遺跡第18次調査（京町）



調査区全景（南から）

中級武士の屋敷地です。確認された遺構は、土坑・溝・穴蔵・道路土堀などです。なかでも、大型の穴蔵は、その規模や出土遺物などから藩営の穴蔵の可能性ががあります。

出土遺物には、荷札や「蔵」と墨書された灯明皿のほか、幕末～明治初期の銃弾などが発見されました。

京隈侍屋敷遺跡第 13・17・19 次調査（京町）



土蔵の基礎部分



釜場跡



瓦敷きの雨落ち遺構

洋画家・坂本繁二郎（1882～1969）の生家です。市内に現存する唯一の武家屋敷で、平成22年に復原されました。瓦を敷き詰めた通路や雨落ち遺構、2階建ての土蔵の基礎や土塀の痕跡、母屋とは別棟の「釜場」と呼ばれていた小屋の基礎、さらには洋画家・青木繁が居候していた茶室の遺構など、新たに貴重な発見がありました。

これらの発掘調査の成果が住居の復原において随所に反映されています。



復元後の坂本繁二郎生家

第37回 くるめの考古資料展
平成20年度～23年度 発掘調査速報展

平成24年10月20日発行

編集・発行 久留米市 市民文化部 文化財保護課
〒830-8520 久留米市城南町15-3
Tel 0942-30-9225 Fax 0942-30-9715
久留米市埋蔵文化財センター
〒830-0037 久留米市諏訪野町1830-6
Tel 0942-34-4995 Fax 0942-34-5045

印刷 中村印刷株式会社